

2024年1月30日

株式会社アートネイチャー

アートネイチャーの芸能担当グループ企業『アート三川屋』がウィッグ製作・協力
劇団文化座公演 166 『花と龍』
2024年2月23日(金・祝)～3月3日(日) 東京・六本木 俳優座劇場

毛髪に関する総合サービスを提供する株式会社アートネイチャー(本社:東京都渋谷区 代表取締役会長兼社長:五十嵐祥剛)の芸能部門を担当するグループ企業『アート三川屋』は、2024年2月23日(金・祝)より俳優座劇場にて公演の劇団文化座公演166『花と龍』のウィッグ製作に協力しています。

劇団文化座 HP: <http://www.bunkaza.com/>



原作・火野葦平
花と龍
脚本・東 憲司 演出・鶴山 仁

企画・佐々木 愛

【江戸の奥】などと呼ばれ、かつてアメリカ商船の母港と呼ばれたエリア。カザン艦隊は、商船として17代でアメリカ本領に渡った船長の実弟を「アリカアリカ」といって呼ぶに事なかれ。最下層の港湾労働者で働き出した者は、家族を持つ、子供たちも教育を受けた。そして、その親がアリカ・カザンだ。

【花と龍】の原典者・火野葦平もまた、産業界労働者からたまたま上げられたもの、北九州の船場に産まれた。早稲田大学文学部に入学し、卒業、勤王として若川藩の家となり、……そして幕府に復讐を持ち、失敗も経験する。やがて、日本が民主主義の国となり、黒いペンを持つことが許された時、彼は日本人の父と母の物語「花と龍」であった。

数々の映画好きだった火野葦平は、新たな文化圏に「異国と世界」と対峙を覚悟とした。「花と龍」を舞台にするに決意した。役柄、舞台、観客をすべて想像するとして演じた火野は、活劇の中で観客の心を捉えた文化座の監督・佐々木 愛は、数々の場面で活躍し、その交流を築いた。火野は1960年、日本演劇界が注目された50年後に死を遂げたのだ。父や母のふたりに愛する人はいないかもしれないが……。残っていた火野の遺言は、火野の情で幕府マンに育てられた中村屋の若川カザンで演じたことと考える。五井金五郎一家の夢と野望は、その物語と繋がっているように見える。私たちは、その歴史の時代を生きているのだ。

文化座公演 166
2024年2月23日(金・祝)～3月3日(日) (六本木) 俳優座劇場

《あらすじ》

広い世界が見たい！

共にめっそうもない野望を抱いた男と女が、北九州若松の港にたどり着く。持ち前の度胸と正義感で波止場の暴力と闘い、めきめきと頭角を現す男、玉井金五郎 24 才。

曲がったことが大嫌い、男勝りで誰れにでも遠慮のない、タバコを吸う小娘、谷口マン 19 才。

男は支那大陸を、女はブラジルを目差して肉体を酷使用する。

時は明治の終り頃、最下層の港湾労働者、ゴンゾウの世界から、地廻り、ヤクザの権力抗争を背景に、仲間の労働者たちの近代化を目差して闘う二人。なぜか、男の背中には昇り龍と菊の花の入れ墨が……。

火野葦平が両親を実名で登場させる、玉井一族のはじまりのものがたり。

劇団文化座公演 166 『花と龍』

企画: 佐々木愛

原作: 火野葦平 脚本: 東 憲司 演出: 鶴山 仁

キャスト:

津田二郎 青木和宣 鳴海宏明 佐藤哲也 米山 実 沖永正志 白幡大介 高橋美沙 高橋未央

藤原章寛 井田雄大 為永祐輔 兼元菜見子 岡田頼明 大山美咲 萩原佳央里 早苗翔太郎 田中孝征 若林

築未 岩崎正芳 桑原 泰 市川千紘 深沢 樹 神崎七重 泉 建斗 阿部由奨 小佐井修平

五十嵐芹架 石川 嶺 川越 司 廣田晴紀 小出菜々子 / 佐々木愛

【公演スケジュール】

2024年2月23日(金・祝)～3月3日(日)

東京・六本木 俳優座劇場

【チケット取り扱い】

劇団文化座

<http://www.bunkaza.com/theaters/2024hanatoryu/hanatoryuticket.html>



アート三川屋

<https://www.art-mikawayaya.com/>

アートネイチャーの芸能担当グループ企業『アート三川屋』は、舞台・ドラマ・映画など、エンターテインメントの世界を彩るさまざまなウィッグを手掛けています。一点一点ハンドメイドで製作されるウィッグは、物語の人物設定や世界観の魅力を最大限に引き出せるよう、ヘアスタイル・植毛・髪色など、伝統と革新の技術を融合させた独自の技法を用いて製作しています。また、使用される毛髪素材は、人毛と人工毛、時には両方を混合するなど役柄・題材により使い分けています。

役柄に適した多彩なスタイリングを提供するとともに機能面では、出演者が最高のパフォーマンスを発揮できるよう、一人ひとり頭のサイズを正確に採寸し、快適なフィット感を実現。長期に及ぶ公演・撮影にも、出演者が演技に集中できるよう、耐久性・通気性に優れた素材を使用するなど、理想の作品作りの一助となるべく、常にウィッグ製作技術の向上に努めております。

これからもアートネイチャーグループの総力を挙げて、アート三川屋はエンターテインメントのさらなる可能性を広げる挑戦を続けてまいります。